

《薬局サーベイランスコメント》

『第3週のインフルエンザの推定患者数は約207万人と2009年の測定開始以来の最多数を更新、今週（第4週）もこの流行状況は継続するものと予想。厳重な警戒が必要』

2019年1月22日
済生会中津病院感染管理室
安井 良則

今シーズン（2018/2019年シーズン）の2019年第3週（1月14～1月20日）のインフルエンザの推定患者数は、前週の値（1,681,072）を上回って2,073,32となり、2009年に薬局サーベイランスが開始して以来の最多数を更新しました（図1）。週明けの第4週の月曜日（2019年1月21日）の推定患者数は523,906と第3週の休日明けの値とほぼ同等であり、現在の流行状況は今週も継続するものと予想されます。

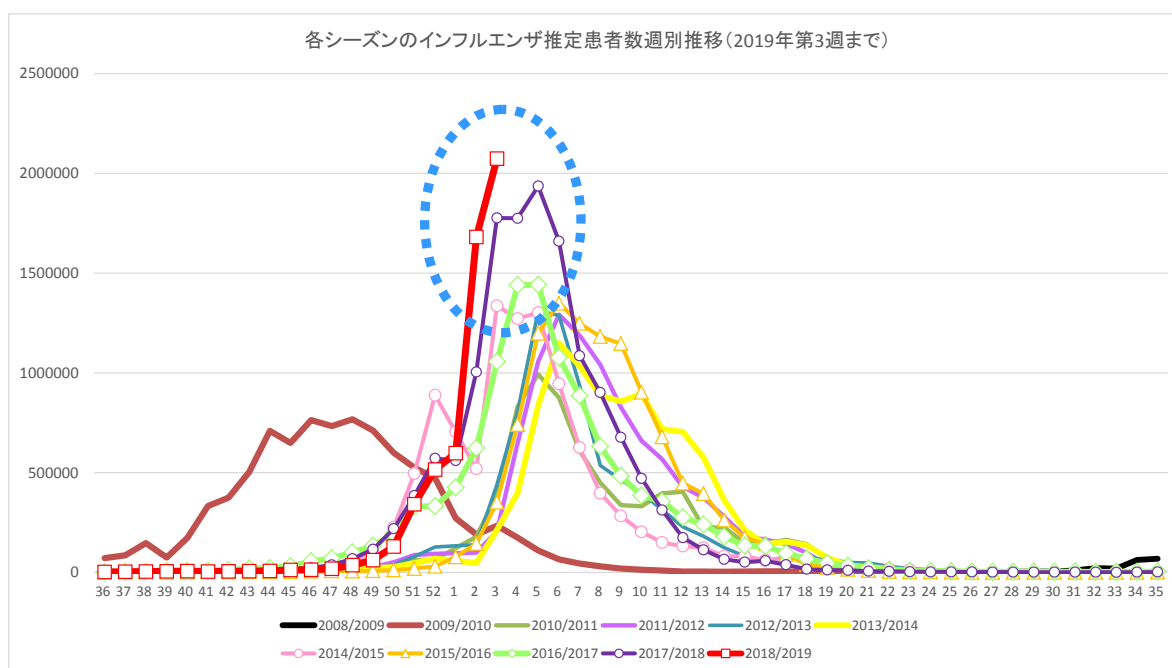


図1. 過去10シーズンと今シーズン（2018/2019年シーズン）の第36～第3週までのインフルエンザ推定患者数の週別推移（2019年第3週の推定患者数：2,073,32）

各都道府県別の第52週の人口1万人当たりの1週間の推定受診者数をみると福井県、三重県、栃木県、熊本県、岐阜県、大分県、茨城県、滋賀県、高知県、北海道の順となっており、43都府県で前週よりも増加が見られています。

2018年第36週から2019年第3週までの累積の推定患者数は5,526,503であり、2018

年 10 月 1 日現在の人口統計を元にした累積罹患率は 4.36%でした。年齢群別での累積罹患率は 5～9 歳 (13.41%)、10～14 歳 (9.95%)、0～4 歳 (9.52%)、15～19 歳 (5.93%)、20～29 歳 (4.97%)、30～39 歳 (4.76%)、40～49 歳 (4.30%)、50～59 歳 (3.47%) の順となっていて、例年に比べると成人層の罹患率が高くなっています (図 2)。

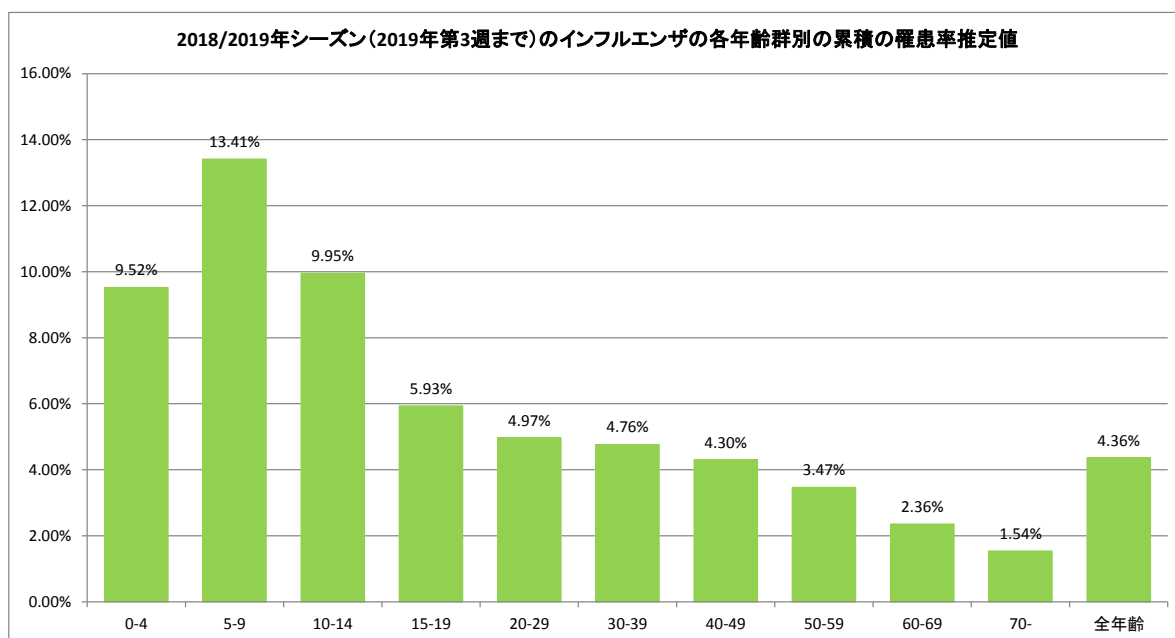


図 2. 各年齢群のインフルエンザ累積罹患率の推定値 (2018 年第 36～2019 年第 3 週、累積推定患者数=5,526,503)

国立感染症研究所感染症疫学センターの病原微生物情報 (<https://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr.html>) によると、今シーズンこれまでのインフルエンザ患者由来検体から検出されたインフルエンザウイルス (882 検体解析) は、A/H1pdm が 67.1%と多く、次いで A/H3 (A 香港) 亜型 31.5%、B 型 1.4%の順となっています。一方、1 月に入ってから A/H3 (A 香港) 亜型の検出割合が高くなりつつあります。

2019 年第 3 週の推定患者数は約 207 万人と、2009 年に薬局サーベイランスが始まって以来の最多数を更新し、今シーズンのインフルエンザは既に大きな流行となっていて、今週 (第 4 週) もこの状況は継続するものと予想されます。今しばらくはインフルエンザの流行には厳重な警戒が必要です。